

留学生のICTを用いた言語実践の実態調査 ：学際的な視点から

村田, 晶子 / MURATA, Akiko

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

科学研究費助成事業 研究成果報告書

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

6

(発行年 / Year)

2015-06

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 4 日現在

機関番号：32675

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2012～2014

課題番号：24652109

研究課題名(和文) 留学生のICTを用いた言語実践の実態調査：学際的な視点から

研究課題名(英文) An Analysis of International Students' Linguistic Practices through ICT:
Interdisciplinary Perspectives

研究代表者

村田 晶子 (MURATA, Akiko)

法政大学・グローバル教育センター・准教授

研究者番号：60520905

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は日本において学ぶ留学生のソーシャルネットワークサービス(SNS)を利用した人間関係の構築、相互支援、相互学習を明らかにした。
調査結果では、留学生のトランスナショナルな他者とのつながりの全体像、学生間の相互支援(悩みの共有と支援)、そしてオンラインでの友人との協働学習(オンライン画面での学習リソースの共有・ディスカッションのプロセス)について明らかにした。これにより留学生のソーシャル・サポートにおけるICTの果たす役割の重要性を示し、今後の留学生支援を考える上で有用な情報を提示した。

研究成果の概要(英文)：This research investigated international students' use of social networking services (SNS) and analyzed their online networks, peer support, and peer learning processes. The research described international students' diverse transnational networks, online peer support processes (sharing problems with and giving advice to peers and family members), and online peer learning processes (sharing learning resources and holding discussions with peers). This research, thus, pointed to the importance of ICT as a social support resource for international students and presented a useful framework for supporting international students in using ICT.

研究分野：文化人類学、異文化間教育、日本語教育

キーワード：留学生 教室外の学び ICT SNS ネットワーキング ソーシャルサポート ピアラーニング 留学生
支援

1. 研究開始当初の背景

ICT の急速な発達により、PC や携帯端末を用いていつでもどこでも人とつながれるようになった現代において、若者の居場所は、家、学校、親しい仲間の集う場所などの身近な空間を越えて、オンラインの領域に広がってきている。

ソーシャルネットワーキングサービス(SNS)は多くの若者達にとって人間関係の維持・構築に不可欠なツールとして広く用いられるようになってきており、留学して海外で学ぶ若者達にとっても出身国の家族、友人といつでもつながることができ、同時に移動先の国、地域において新たなネットワークを構築することができる便利なツールとして活用されている。

越境する若者達のソーシャルメディアの利用が彼らの移動先での生活を豊かにする上で役立っていることを多くの研究が指摘しており(Croucher 2011, McLean 2010, Van Den Bos & Nell 2006, Xie 2005, Thompson 2002)、オンライン空間がトランスナショナルな規模で多様な他者とつながり、支援を受け、成長できるスペースとして大きな可能性を持っていることが示唆されている。

日本に留学する若者達にとっても SNS は人とのつながりを広げ成長する上で大きな役割を果たしていると考えられるが、これまで留学生の SNS の使用実態 (SNS を用いた人的ネットワーキング、相互支援、相互学習) に関して十分な光が当てられてこなかった。留学生教育、異文化間教育分野の研究において、留学生の生活環境における人的ネットワークと彼らを取り巻くソーシャルサポート (家族や友人から受ける社会的支援) の分析が進められているが (田中 2000)、そうした対面での支援の分析を中心とした研究に比べて、オンラインでの留学生の人間関係の構築やサポートネットワークに焦点を当てた研究は十分に行われていない。

日本の大学で学ぶ留学生がオンライン上で友人、家族とどのようにつながり、どのような支援を受けているのかを調査することは、今後の留学生支援 (留学生カウンセリング、アドバイジング等) 異文化間教育にとって役立つ情報を提供するものであり、また高度人材としての留学生の日本での就職と日本定着を促進する移民政策の領域にも有益な知見を提供するものであることから、早急に調査を行い、研究成果を発信していくことが求められている。

本研究はこうした課題意識に基づき、留学生の教室外での SNS の使用実態を分析するために、学際的な調査メンバーが留学生教育、言語教育、異文化間教育、文化人類学、そして教育工学の専門分野の知識を融合させ、留学生の ICT の使用実態の多角的な分析を行った。

2. 研究の目的

本研究は留学生の教室外での SNS を用いた人間関係の構築、学習、相互支援のプロセスを明らかにすることを目的とし、留学生のオンラインを用いたネットワーキングを以下の3点に分けて分析した。

- (1) 渡日前と渡日後をつなぐ留学生のオンラインによる相互支援の分析
- (2) 渡日後のオンライン・ネットワークの形成と相互支援の分析
- (3) オンラインを用いた協働学習の分析

3. 研究の方法

調査期間は2012年4月から2015年3月までの3年間である。調査の対象となった留学生は合計253名で、21の国・地域の留学生の SNS の使用実態を調査した。留学生の出身国・出身地域別の内訳は以下のとおりである：中国、香港、台湾、韓国、ベトナム、タイ、アメリカ、ブラジル、イギリス、フランス、イタリア、スイス、オーストリア、ドイツ、チェコ、ブルガリア、ハンガリー、ロシア、ウズベキスタン、ポーランド、オーストラリア。

調査方法は以下のとおりである。

- (1) 留学生の ICT 利用場面の録画記録の分析 (学生寮のラウンジ、学生の部屋など)
- (2) 留学生の PC その他モバイル機器の通信記録の分析
- (3) 留学生及び留学生と交流のある関係者のインタビューデータの分析 (音声録画、ビデオ録画分析)

4. 研究成果

- (1) 渡日前と渡日後をつなぐ留学生のオンラインによる相互支援の分析

留学生の渡日前から始まるオンライン・コミュニティ内のインタラクションを調査するために、大学の ePortfolio システム内の交流サイトを渡日前の学生が利用できるように設定し、入学予定者が大学に在籍している留学生と交流することが可能な環境を提供したところ、留学生 (新入生と在校生) の間で交流と相互支援が観察された。渡日前の留学生はオンラインの交流サイトを通じて在校生に日本での生活情報、渡航情報、大学での勉強に関する情報など様々なトピック (図1参照) の質問を投稿し、在校生はそれに対して情報を提供したり、アドバイスを与えたりして支援を行っていることが観察された。

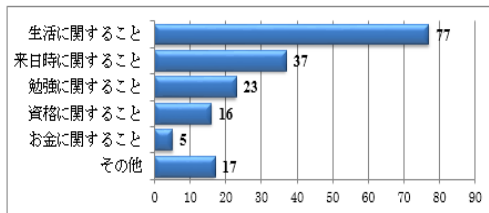


図1：学生交流サイトのトピック

また、渡日前の学生の間でもネットワーキングが始まり、お互いのバックグラウンドについて情報を交換し、日本への渡航方法や時期、日本での生活環境などについての情報交換が行われた。

学生に対して、渡日後にインタビューを行った結果、渡日前に抱えていた様々な不安がオンラインで留学生コミュニティに参加し、在校生、そして他の渡日前の学生からアドバイスや情報を得ることで軽減されたという回答が多く挙げられた。

また、渡日前の入学予定者同士が情報を交換することで、留学して共に学ぶ学生のバックグラウンドが把握でき、渡日後に人間関係を構築する上で役に立ったという回答も多く出され、渡日前から始まるオンラインでのネットワーキングが留学生の円滑な日本での生活、勉学のスタートに役立っていることが分かった(調査の詳細は古川・毛利・村田 2013 参照)。

(2) 留学生の渡日後のオンライン・ネットワーク

留学生の渡日後の SNS を用いた人的ネットワークを調査した結果が図 2 である。図 2 は留学生が日本留学中に様々な SNS (Facebook、LINE など) を用いて日本での人的ネットワークを構築していること、そしてそれと並行して国の家族、友人との通信にも SNS を活用していることを示している。これに加えて、出身地から日本に移動してきた留学生同士のネットワーク、インタラクションも観察され、SNS を通じたトランスナショナルな人的ネットワークの広がりが示されている。

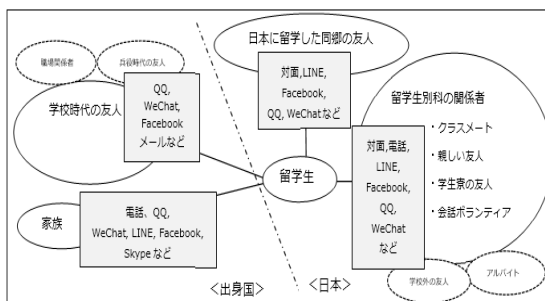


図2 留学生の ICT を用いたネットワーク図

さらに、留学生が日本留学中の不安や悩みを解決するために SNS をどのように利用しているか調査したところ、SNS が学内、学外の友

人、アルバイト先の知り合い、同じ出身地からの留学生仲間、国の家族や友人、出身地の高校や日本語学校関係者、さらにインターネット上で知り合った人々など、多様な人々の悩み事の相談に利用されていることが明らかになった。

とりわけ多くの留学生が、日本での進路選択(大学、大学院進学、就職活動など)に際して、日本で所属している学校の教職員に相談するだけでなく、SNS のネットワークを通じて国内、国外の多様な人々に進路に関する悩みを相談していたこと、そして様々なアドバイス、励ましを受けていたことが彼らの通信記録から観察された。また、留学生のインタビュー結果からそうしたオンラインでのアドバイス、励ましの多くが彼らの進路決定に役立っていたことも明らかになった。

このことから留学生の進路選択、就職支援において学校のアドバイジング機能と並んで、SNS を介したサポートネットワークが重要な役割を果たしていることが明らかになった(調査の詳細は村田・古川 2014、2015 参照)

(3) 留学生のオンラインでの協働学習の分析

留学生の SNS 記録の分析から約 8 割の留学生が授業の課題、試験準備を行う際、友人とオンライン上で協働学習を行ったことがあると答えている。留学生の友人との通信時の録画記録から、彼らの相互学習の事例を見ることができる(写真 1、2)。

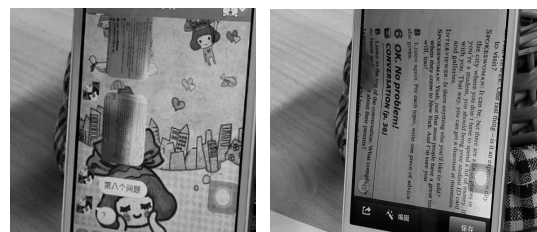


写真1(左) 写真2(右): どちらも留学生の携帯端末画面

上の写真は留学生が携帯端末を用いて友人とディスカッションを行っている様子である。写真1は友人とオンライン上で日本語能力試験の文法の問題についてディスカッションを行い、一緒に解答を考えている様子を示しており、写真2は留学生が友人と英語の試験の画像を見ながら疑問点についてディスカッションを行っている様子を示している。

このような SNS を用いた学生間の協働学習は、大学の授業で出されるグループワーク課題で多く用いられており、グループワーク課題のある科目を履修している留学生の 92% が SNS をグループディスカッションに利用していると回答している。

そこで本研究では留学生のグループワークにおける SNS を用いた協働学習の実態調査として、留学生と日本の学生のグループフィー

ルドワークにおける SNS の使用を分析したところ、フィールドワークを行った 10 の学生グループが全て SNS のグループ機能を用いて、メンバー間でディスカッションを行い、SNS を積極的に活用して、フィールドワークを行ったことが分かった。表 1 は学生グループのフィールドワークにおける SNS の利用率を示しており、学生達が準備、調査実施、調査結果分析の各段階において SNS を利用したことが分かる (表 1)。

表 1 学生グループの SNS の利用率

調査段階	主な用途	全グループ中の割合
調査準備	1. 調査日時、場所決め	80%(8 件)
	2. 調査テーマの相談	50%(5 件)
	3. 調査項目の相談	50%(5 件)
	4. 調査テーマの情報共有	50%(5 件)
現地調査中	5. 調査地での待ち合わせ情報	50%(5 件)
	6. フィールドの状況撮影	60%(6 件)
結果分析 (含む発表準備)	7. 調査結果データの統合	50%(5 件)
	8. 発表 PPT の作成、修正	80%(8 件)
	9. 言語チェック (日英)	40%(4 件)
	10. 調査発表の分担・練習	60%(6 件)

さらに、SNS はグループワークにおける学生間の相互サポートに用いられており、特にグループ内で日本の学生が留学生のために次のような支援を行っていることが観察された。

留学生がフィールドワークの調査テーマを理解できるようにオンラインで背景情報を留学生に配信する

留学生に調査活動の進捗状況を SNS で随時伝える

調査場所の詳細と待ち合わせのための情報を送る

データ分析、結果発表における日本語チェックを行う

また留学生も SNS を通じて調査結果の分析に参加し、調査テーマに関する自国の事情を SNS 上で説明するなど、調査の分析で貢献していることが観察され、SNS を用いた学生間の相互構築的な学びのプロセスの一端が明らかになった (調査の詳細は Murata 2014、村田 2014 参照)。

(4) 本研究の意義と今後の展望

留学生のネットワーキング分析において、これまで対面を中心とした人間関係の構築に関する研究が蓄積されている一方で、オンラインでの人間関係の構築や支援のネットワークに焦点を当てた研究が十分にはなされてこなかった。

本研究の意義は、留学生のトランスナショナルなネットワーキングの全体像、そして学生間の SNS を用いた相互学習、相互支援の実態を明らかにすることにより、越境する若者が SNS を通じて多様な形でサポートネットワークを築き、それを留学生活における不安、問題の解決、そして学習に活用していることを明らかにしたことにある。

本調査結果は留学生の生活支援、学習支援を

充実させる上で貴重な情報を提供するものであり、留学生の受入環境整備を考える際に役立つ多くの情報を提供するものである。

留学生教育、留学生支援に関わる関係者は留学生への対面の支援を行う際、本研究が明らかにした留学生のオンラインのサポートネットワークについて深く理解することによって、学生の構築しているネットワークリソースが対面の人間関係だけでなくオンライン上に様々な形で広がっていることを理解することができ、それにより学生のカウンセリング、アドバイジング時にオンライン・オフラインのソーシャル・ネットワークから受けるサポート情報と連携しつつ、そこでは十分に行われていない支援に焦点を当てた、より効果的なカウンセリング、アドバイジングを行うことができるようになると考えられる。

また教室では見えにくい学生のオンラインでの自主的な協働学習、相互支援の具体的なプロセスを可視化した本研究のデータは、留学生教育、そして留学生と日本の学生の共修教育をデザインする上でも役立つ教育的リソースとなるものである。

さらに、本研究の知見は留学生だけでなく、越境して様々な社会制度の境界線を越えなければならない人々 (例えばニューカマーの子供たち、技術研修生、外国人介護士など) に対するソーシャルサポートを考える上でも有用なものである。移動する人々がどのように自分達でオンラインのソーシャルサポート・ネットワークを構築し、友人、家族から支援を得ているのかを理解することは、外国籍の人々の受入支援者、そして移民政策の立案者が、労働現場、教育現場、生活環境において外国籍の人々のための環境を整備し、支援を考える上で非常に役に立つ情報である。

今後は本研究で得た知見を生かし、留学生だけでなく、外国籍の児童、外国人労働者にも対象を広げて彼らの SNS を用いたサポートネットワークの実態を解明し、調査結果を発信することで、越境して日本で就学、就労する人々の受入環境の整備に貢献したいと考える。

< 引用文献 >

田中共子、留学生のソーシャル・ネットワークとソーシャル・スキル、ナカニシヤ出版、2000。

村田晶子、古川智樹、ICT を用いた留学生の人的ネットワーキングの広がり、カイト百合子監修、高等教育における留学生教育の新潮流、関西大学出版、2015、180-196

村田晶子、古川智樹、留学生の第三の居場所：SNS を通じた人とのつながりと相互支援 - 進学の境界線越えに焦点を当てて -、異文

化間教育、第 40 巻、2014、53-69.

村田晶子、多文化間での社会調査における SNS の活用 - 留学生と日本人学生の SNS を介した協働調査活動の実態分析から -、コンピュータ&エデュケーション、第 37 巻、2014、91-96.

古川智樹、毛利貴美、村田晶子、e ポートフォリオ・システムを活用した渡日前から始まる日本語教育 - 学習環境面に配慮したアーティキュレーションの構築を目指して -、留学生教育、第 18 巻、2013、65-75

Croucher, M. (2011) "Communicating Through Social Networking Helps Immigrants." *Communication Currents*, Vol. 6, Issue 5.

McLean, C.A. (2010) "A Space Called Home: An Immigrant Adolescent's Digital Literacy Practices." *Journal of Adolescent & Adult Literacy*, Vol.54 (1), 13-22.

Murata, A. Understanding Social Issues and Co-constructing Cultural Meanings in an Online Collaborative, Reflective Learning Project, ICoME 2014 Proceedings, Peer reviewed, 2014、25

Thompson, K. (2002) "Border Crossings and Diasporic Identities: Media Use and Leisure Practices of an Ethnic Minority." *Qualitative Sociology*, Vol.25, Issue 3, 409-418.

Van Den Bos, M. & Nell, L. (2006) "Territorial Bounds to Virtual Space: Transnational Online and Offline Networks of Iranian and Turkish-Kurdish Immigrants in the Netherlands." *Global Networks*, Vol.6, Issue 2, 201-220.

Xie, W. (2005) "Virtual Space, Real Identity: Exploring Cultural Identity of Chinese Diaspora in Virtual Community." *Telematics and Informatics*, Vol.22, Issue 4, 395-404.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 10 件)

主要な論文

Akiko Murata, Understanding Social Issues and Co-constructing Cultural Meanings in an Online Collaborative, Reflective Learning Project, ICoME 2014 Proceedings, Peer reviewed, 2014、25.

村田晶子、多文化間での社会調査における SNS の活用 - 留学生と日本人学生の SNS を介した協働調査活動の実態分析から -、コンピュータ&エデュケーション、査読有り、第 37 巻、2014、91-96.

村田晶子、古川智樹、留学生の第三の居場所：SNS を通じた人とのつながりと相互支援 - 進学の境界線越えに焦点を当てて -、異文化間教育、査読有り、第 40 巻、2014、53-69.

村田晶子、日本人と留学生の共同フィールドワークを通じた相互学習支援とネットワークの分析、異文化コミュニケーション学会第 29 回年次大会抄録、査読なし、2014、9-10.

村田晶子、毛利貴美、関西大学国際学生寮における共生を通じた学びと課題、関西大学留学生別科開設記念シンポジウム予稿集、査読なし、2013、45-48.

古川智樹、毛利貴美、村田晶子、e ポートフォリオ・システムを活用した渡日前から始まる日本語教育 - 学習環境面に配慮したアーティキュレーションの構築を目指して -、留学生教育、査読有り、第 18 巻、2013、65-75.

毛利貴美、古川智樹、村田晶子、渡日前日本語学習課題による留学生のレディネス形成の試み-e ラーニングを利用したインターアクティブな学習環境の構築、日本語教育国際研究大会名古屋 2012 プロシーディングス、査読有り、第一分冊、2012、443.

〔学会発表〕(計 10 件)

主要な発表：

村田晶子、多文化フィールドワークプロジェクトと日本語教育、AATJ 2015 Annual Spring Conference、2015 年 3 月 26 日、於アメリカ・シカゴ

Akiko Murata, Understanding social issues and co-constructing cultural meanings in an online collaborative, reflective learning project, ICoME 2014 (International Conference for Media in Education), August 26, 2014, Seoul, Korea.

村田晶子、日本人と留学生の共同フィールドワークを通じた相互学習支援とネットワークの分析、異文化コミュニケーション学会第 29 回年次大会、2014 年 9 月 27 日、於上智大学(東京都千代田区)

村田晶子、SNS を通じた留学生のネットワークと相互学習支援の分析、Sydney International Conference on Japanese

Language Education 2014, 2014年7月11日、
於オーストラリア・シドニー

村田晶子、国際学生寮でのICTを用いた
人的ネットワーキングの広がり
の分析、多文化関係学会第12
回年次大会、2013年10月
20日、於立教大学新座キャン
パス(埼玉県新座市)

村田晶子、学生のSNSを通じた
人的ネットワーキングの教育的
意義、第20回日本教育メ
ディア学会年次大会、2013
年10月13日、於和歌山大学
(和歌山県和歌山市)

村田晶子、国際学生寮にお
ける多文化交流のリーダー
シップ分析：共生を通じた
学びと課題、2013年異文
化コミュニケーション学会
第28回年次大会、2013
年9月22日、於中央大学
(東京都八王子市)

村田晶子、関西大学国際
学生寮における共生を通
じた学びと課題、関西大
学留学生別科開設記念シ
ンポジウム、2013年3
月9日、於関西大学(大
阪府吹田市)

[図書](計1件)

カイト由利子監修、古川智樹編著、村田晶子
他、関西大学出版、留
学生教育の新潮流：
関西大学留学生別科
の実践を通じて、2015、
204(33-48、140-196)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

村田 晶子 (MURATA, Akiko)
法政大学・グローバル教育センター
・准教授
研究者番号：60520905

(2) 研究分担者

毛利 貴美 (MOHRI, Takami)
関西大学・国際部・講師
研究者番号：60623981

古川 智樹 (FURUKAWA, Tomoki)
関西大学・国際部・講師
研究者番号：60614617